



今回は、関市富野地区の地域委員会、関市企画広報課と連携したフィールドワークについて報告します。

◇ 富野地域委員会、関市企画広報課の方々と地域の歴史を学びました！

日時：令和元年 6月16日(日) 10:00 ~ 16:30

参加：関高校地域研究部 5名、富野地域委員会 5名、関市役所 3名

内容：関市富野地区の史跡探訪を通じ、地域の歴史を学ぶ。地域の方々との交流の中で、貴重な文化財の保存や活用について考える。

◇ 関市の地域委員会とは何か ~住民主体で地域課題を考える~



関市の地域委員会とは、市内各地域それぞれの特性をいかして住民主体の地域づくりを行う組織のことで、地域の課題は地域で検討・解決し、将来にわたって持続可能にしておくため、住民の力を最大限に発揮するための組織で、おおむね小学校区を単位にして、様々な団体や事業者が参加しています。

地域には住民の安全・安心の確保、生活の利便性の向上、美しい自然環境やまちなみの保全、高齢者や障がいを持つ方への支援、子育て支援、青少年健全育成、産業の活性化、祭りや地域文化の伝承など、地域住民に広くかかわる公共的な活動がたくさんあります。地域の歴史の再発見、歴史遺産の

保全や活用も、重要な地域課題のひとつです（以上、関市HPの記載より）。

市内の富野地区では、地域委員会が中心となり、富野のシンボルと呼ばれる小野山城（本城山城、戦国期の山城）に関する調査研究・保全活用が進められています。メンバーの中には、関高校地域研究部の前身、社会研究部の先輩方もいらっしゃいます。今回、地域研究部は、富野地区の地域委員会や関市企画広報課の方々と協議の上、富野地区の中世史の調査を行うことにしました。富野地区は市内でも中世の史跡が集中する特異な地域として知られています。以下、当日の様子です。

◇ 当日のようす

午前10時、富野ふれあいセンターに集合。自己紹介と打ち合わせを行い、最初の訪問地、大野神社に向かいました。おそらく10世紀半ばにさかのぼる古社で、室町時代から現代にいたるまでの棟札（建築・改築記念の札）が多数保管されています。地元の石原さんからは、神社や地域の歴史に関するお話をうかがいました。隣接する臨済宗大禅寺では、開山峯翁祖一の位牌のほか、位牌堂の木製如来像を見学しました。

そのあと小野地区に向かい、地元の大野さんの案内で小野神社を見学しました。この社も室町時代の神名帳に記載があります。寺院（曹洞宗宝泉寺）が隣接する立地のあり方は、大野神社と大禅寺の関係を思わせます。地方における神仏習合を考える上で、寺社の立地も見逃せない論点になりそうです。

藤谷地区の公民館で昼食をとったのち、地元の川合さんの案内で大通寺跡と白山神社を見学しました。大通寺もまた臨済宗寺院ですが現在は廃寺となっています。か



たわらに開山峯翁祖一の墓石があることを確認しました。

かつて白山神社に収められていた円空仏を麓のお堂で見学したのち、坊地地区の臨濟宗靈松寺を訪問。この寺院には市指定文化財の仏像が2体保管されています。十一面観音立像は平安前期、阿弥陀如来立像は鎌倉期の所産と考えられています。最後に志津野地区の臨濟宗吉祥寺を訪問し、歴史に詳しいご住職より、峯翁祖一にまつわる様々なエピソードや仮説について、うかがうことができました。

◇ 歴史遺産の探究と保存・活用

富野地区には平安末に成立した撰閥家の荘園が3か所、古社が3か所、南北朝期に創建されたと伝える臨濟宗寺院が3か所、確認されています。地方の山城としては比較的規模の大きな小野山城があるほか、この地が明智家の所領であったことが江戸期の系図に記載されています（明智氏一族宮城家相伝系図書）。

富野地区は岐阜県の中世史、郷土史を研究するうえで、格好のフィールドといえます。

今回の調査を通じ、寺院や神社に伝わる貴重な文化財を調査し保管している関係者の方々、ジオラマや道標を作り小野山城の保存や活用を進めている方々と出会い、地域ならではの活動の様子をはじめて知りました。それと同時に、「区内には眠った資料が多く存在しているのではないか」「こうした地域の遺産を広く公開し、活用する道を早急に探るべきではないか」と考えました。

地域研究部は、まずは富野地区の歴史を丹念に調べ、埋もれた史実の掘り起こしや今までに知られた史料の再検討を続ける予定です。さらに、研究成果を地域や市役所の方々と共有し、保存や活用の在り方も探っていきたいと思います。



◇ 生徒の感想

富野地区で一日、フィールドワークをした。貴重な仏像や棟札など、それも平安や鎌倉、室町時代にさかのぼるものが、地域のお寺や神社に複数あったことに驚いた。近くに住んでいるのに、こんなことは全く知らなかった。きっと、僕たちが知らないこういった貴重な文化財が、まだまだ地域のどこかに眠っているのだろうと思う。



さらに、この地域は、土岐氏や明智氏と何かしら関係性があるのかもしれないということも、今回のフィールドワークでうっすらと見えてきた。桔梗の紋がある寺院、江戸期の系図にある明智伝説、かつての土岐氏や明智氏的美濃支配など、これらが何かで結びついているのか、また、仮にその結びつきがあったとしたならば、それはなぜ、どのようにして結ばれていったのか、謎は深まるばかりである。これからの研究が楽しみだ。

今回、富野地区の地域委員会のみなさん、お寺や神社の関係者のみなさんに大変お世話になりました。ありがとうございました。また富野の地を訪れます。